



東青地域県民局地域農林水産部
■ 農業普及振興室 ■

〒030-0801

青森市新町二丁目4番30号

TEL 017-734-9965 FAX 017-734-8305

E-mail hi-nosui@pref.aomori.lg.jp



持続可能な農山漁村の確立を目指す「地域経営」を支援

県では、人口減少社会を迎える中で、農林漁業者が安心して暮らしていける仕組みを創り上げるため、「地域経営」をキーワードにした重点事業『農山漁村「地域経営」担い手育成システム確立事業』を展開しています。

「地域経営」とは、集落などの地域を一つの会社として捉え、認定農業者や女性起業グループ、集落営農組織など地域の中核となる経営体が協力しながら、新作物の導入や加工品開発、地域コミュニティの再生などに取り組み、地域全体の収益の向上や雇用を生み出すことです。

当地域農林水産部では、管内の市町村が着実に成果を上げられるよう、市町村毎に支援チームを結成して、支援しています。以下に、今年度の各市町村の主な取組を紹介します。

青森市は、無料職業紹介所開設に向けての準備や、農協との連携による新技術・新作物の導入と新商品の開発に係る研修・検討会の開催、認定農業者等による新規就農者のフォローアップ活動などに取り組みました。

平内町は、町の主要産業であるほたて貝養殖漁業の補完となる新たな魚種資源「ナマコ」の採苗・中間育成技術の開発や、地域農水産物にこだわった加工商品の開発と改良などに取り組みました。

外ヶ浜町は、外ヶ浜町農業・農村活性化協議会を中心に、集落営農組織や認定農業

者などの育成・強化、特産品づくりのための新作物の導入や加工商品づくりに取り組みました。

今別町は、認定農業者の経営体強化を中心に地域の農業者を巻き込んでの「かぼちゃの里」の仕組みづくりや、一球入魂かぼちゃの販売強化や町ならではの加工品開発に取り組みました。

蓬田村は、高齢化などによる農業労働力不足に対応するため、村主体の生産法人による農作業受託体制や、加工施設、物産販売施設の基本構想の策定を進めるとともに、先進地事例の調査を行いました。

各市町村とも「地域経営担い手育成5ヶ年計画」に基づいた特色ある取組で、「地域経営」を担う経営体の育成を進めています。



「かぼちゃの里」づくりに向けた試食会（今別町）

しっとりもちり東青の米粉スイーツ創出事業で米粉の利用拡大を支援

農業普及振興室では、昨年度から米粉の利用拡大を図るため、幅広い年齢層に支持され人気のあるスイーツに注目し、米粉と東青特産の農産物とを組み合わせた特徴のあるスイーツを開発し、消費者に提供する「しっとりもちり東青の米粉スイーツ創出事業」を展開しています。

昨年度は東青地域のお菓子屋さんなどから米粉スイーツの商品企画を公募し、6事業者が東青地域で生産された卵、りんご、かぼちゃ、カシス、トマトを使った11種類を、今年度は6事業者で8種類の米粉スイーツを商品化しました。

今年2月には、これら商品を一斉に販売する「東青の米粉スイーツ販売促進キャンペーン」を実施し、好評でした。

また、若い層のアイデアを商品づくり

に活かそうと調理科等のある高校・短大に試作品を委託し、事業者とのマッチングを行った結果、5事業者が11種類を商品化し、2月から商品として販売されました。

この事業により米粉スイーツを作ったお菓子屋さんと米粉生産者の結びつきが強まりました。

今後とも米粉の利用を一層拡大をしていくことにしています。



学生のアイデアで商品化された米粉スイーツ

東青の「新鮮野菜」商品化推進事業で新たな所得確保を支援

農業普及振興室では、主に高齢者や女性が生産する自給的野菜を商品化して、新たな農業所得とするため、JA青森の地産地消部会と連携して、平成24年度から「東青の「新鮮野菜」商品化推進事業」を実施しています。

JA青森では地産地消部会を平成23年12月に設立し、青森市民に新鮮で安全・安心な農産物を供給して、地産地消を進めており、平成24年3月から青森市内スーパーのインショップで「新鮮野菜」を販売しています。

事業の推進に当たり、地産地消部会の代表や市町村、関係団体で東青の「新鮮野菜」商品化推進協議会を設置して、事業の進め方等を検討し、現地栽培実証ほの設置、野菜栽培講習会、マーケティング研修会を行うとともに、青森市内でインショップや直売所の利用者及び高齢者世帯を対象にしたアンケート調査を基に、新たな販売戦略などを検討しています。

平成24年12月末現在の地産地消部会員は55名で、インショップでの販売額は約480万円になっています。

今後は、さらに多くの生産者に参加いただき、生産・出荷量の拡大とともに、年間を通じた品揃えで、農業所得の向上を進めていくこととしています。

地産地消部会への加入等については、最寄りのJA青森の各支店にお問い合わせください。



冬の無加温ハウスによる現地検討会

あおもりカシスブランドステップアップ支援事業の取組

青森市のカシスは昭和50年に導入され、生産量は全国1位、青森産ブランド品として売れ筋となっており、生産量が需要に追いつかない状況にあります。そのため、農業普及振興室では、平成24年度から県の重点事業で生産量拡大を支援しています。

本年度は、規模拡大に向けて収穫方法の改善や機械収穫可能性、新品種(現地適応性試験ほ5ヶ所及び県南果樹部)等による可能性について検討しました。

また、技術普及展示ほや、昨年度作成した「あおもりカシス栽培マニュアル」を活用し、カシスマイスターの育成や栽培技術の早期普及拡大、スグリコスカシバの防除対策の確立にも努めました。

平成24年産のカシスは豪雪の被害で枝折れが多くかなりの減収が心配されましたが、「あおもりカシスの会」の集荷量は6.6tとほぼ前年並(6.9t)を確保できました。



カシスマイスター剪定研修

福士武造さんが乾田直播で全刈収量12俵を達成！

青森市浪岡で水稻乾田V溝直播栽培に取り組む福士武造さんが、10a当たり全刈収量12俵を達成しました。平成20年から本格的に取り組んで以来、収量は、これまで安定して10俵以上を確保していますが、12俵は初めて。しかも、玄米タンパクは7%を切り、等級は全量1等の高品質米でした(品種:まっしぐら)。



これは、独自に開発した地下かんがいシステムによる出芽・苗立ちの向上による生育の安定化と、田畑輪換による地力の維持並びに病害虫の抑制に加え、日々の観察と工夫に基づき導入した直交播種法(通常縦方向のみに横方向を追加)等の栽培技術の積み重ねによって達成したものです。

研究熱心な福士さんは、これまで移植で取り組んでいるJAS有機栽培を、平成25年から乾田直播でも取り組むとし、関係者から注目を集めています。自らの技術を惜しみなく、広く公開するとともに、五所川原農林高校や地元小学校への出前授業等、後継者育成にも熱心に取り組んでおり、今後ますますの活躍が期待されます。



雪害対策を万全に！

平年を上回る積雪量で、りんご樹やハウス等の被害が発生しています。園地やハウス等をこまめに見回り、りんご等果樹では、融雪促進剤(材)の散布、塗布剤による傷口の保護や支柱による補強、ハウスでは雪下ろしや暖房による融雪促進、支柱による補強で被害を軽減しましょう。

新農業経営士、青年農業士、ViC・ウーマンを紹介します！

平成25年2月、東青管内から農業経営士1名、青年農業士3名、ViC・ウーマン2名が新たに認定されました。今後一層の活躍が期待されます。

農業経営士



がまん さとし
我満 智さん（青森市）

平成16年からトマト栽培に養液土耕システムを導入し、生育診断に基づいた草勢管理技術を駆使しながら、ミニトマト40a、トマト10aの大規模施設トマト栽培を実践しています。特に、「全国土の会青森県支部長」の初代会長を務めるなど徹底した土づくりを実践することで、品質の良いミニトマトを長期間収穫し、高い農業所得を確保しています。

青年農業士



なごや まさひろ
名古屋 正浩さん（青森市）

農業高校を卒業後、平成9年に就農しました。花きを主体に水稻との複合経営を実践しています。花きはカーネーションを主体とした施設栽培で、高温対策や害虫防除の徹底等による高品質な花きを生産しています。また、地域における「花育」の取組を通じた地域の活性化に高い関心を持っています。



さとう よしひと
佐藤 勝者さん（青森市）

農業短期大学を卒業し、タキイ研究農場附属園芸専門学校で1年間研修後、平成13年に就農しました。水稻とトマト、直売所向け野菜の複合経営を実践し、経営主として、学生時代の研究成果を活かし、水稻の省力化とコスト低減に向けた育苗箱全量施肥に取り組んでいます。



かわむら みき
川村 美紀さん（青森市）

非農家出身ですが、農業後継者との結婚を機に、平成15年に就農しました。りんごと花きの複合経営を実践し、花きの生産及び販売のほか、りんごの観光農園及び販売全般を担当しています。トップランナー塾青春農場直売会では中心的役割を担っているほか、トルコギキョウのコサージュ品種やスプレーグクの新品種の栽培に取り組むなど、オリジナル品種による高付加価値な花きづくりを目指しています。

ViC・ウーマン



つしま ときこ
對馬 登喜子さん（青森市）

浪岡アップル友の会に加入し、野菜や加工品、手芸品等を販売しています。また、同会開発部会長として、会の加工品づくりやイベントでの実演販売等にも積極的に取り組み、直売所の活性化を図っています。



ささき りょうこ
佐々木 綾子さん（平内町）

J A 青森女性部の事業や直売活動を通して女性部活動の活性化に努めています。また、経営規模は小さいですが、スーパーのインショップへの通年出荷を目指し、野菜の作付けや貯蔵方法の工夫に取り組んでいます。